

資料 3

森林ワーキンググループの 検討状況について



関川村地域政策課

脱炭素推進室

2024年 3月21日

1. 地域内エコ循環システム構築と地域課題解決

地産地消型「地域エコ経済循環システム」導入による地域課題の解決

<林業の成長産業化と森林の適切な管理に向けて>

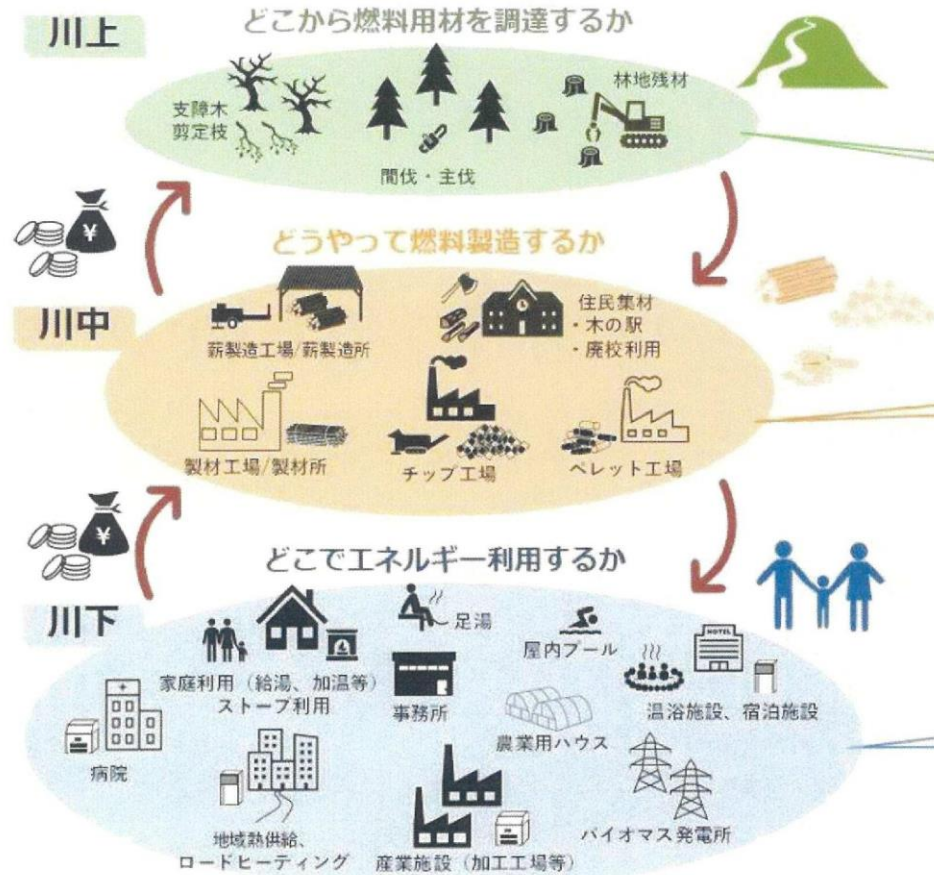


【地域課題】

- ① 森林資源の適正管理
- ② 山林荒廃・害獣防止
- ③ CO2吸収による脱炭素推進
- ④ 木質バイオマス活用
- ⑤ 新規雇用・産業創出
- ⑥ 林業関係人材確保・育成
- ⑦ 木材販売先確保
- ⑧ 環境価値創出
- ⑨ 森林経営健全化

豊富な森林資源を活用して
地元に資金が滞留・循環する
システムの構築を目指す！

2. 地域内エコ循環システムの考え方



地域内エコシステムの考え方

▼地域関係者への利益還元を目指します。

✓森林所有者への利益を還元

- ✓主な燃料：低加工度の燃料材(薪、チップ)
- ✓未利用材やC・D材を活用します



薪



チップ

✓規模：概ね出力1000kW未満

✓FIT/FIP 事業を主とした事業は想定していません。

✓熱利用先は主に温浴施設や宿泊施設、農業用ハウスなどの他、多岐にわたります。

(林野庁HPから抜粋)

3. 問題解決の方向性(全体討議)

1. 豊富な森林資源を効率的・計画的に活用して、地元資金の好循環を巻き起こすためには、関川村全体を一つの「林業事業会社」と看做し「地域内エコ循環システム」の構築を目指すことが不可欠である。
2. 個別事業における課題抽出を実施。
個別事業においては、「人・物・金・情報」の不足がネックとなっている。目指すべき目標(関川村全体の森林経営計画等)を共有し、「関川村林業事業会社」全体としての、収入(森林譲与税・Jクレジット・各種補助金・素材販売・バイオマス燃料材販売・再エネ電力販売等)を、支出(計画策定費用・施業費用・集材運搬費用・設備投資及び維持管理費用・新規雇用費用・研究開発費用等)に対して有効的・公平に配分することで、ボトルネックの解決を図り、全体システムを意図的に好循環創出に向けて起動していく。
3. この好循環創出のリーダーシップは村役場が担う。

4. 関川村林業コンソーシアム案(協業体制と役割分担)

